

# 小学校社会科におけるキャリア教育の 人間関係形成・社会形成能力に関する事例的研究

岡崎 奏斗\*・阿部 隆幸\*\*

(令和3年8月31日受付；令和3年11月16日受理)

## 要 旨

本研究は、小学校社会科において、アクティブ・ラーニングを取り入れた授業を行なうことによって、「人間関係形成・社会形成能力」が向上するかを検証することを目的とする。小学校社会科において、アクティブ・ラーニングを取り入れた授業実践を5時間行なった。単元前後の質問紙調査及び、全時間の授業実践における学習者の振り返りの記述、授業のビデオ記録の分析を行なった。その結果、授業を通して、キャリア発達にかかわる能力の1つである「人間関係形成・社会形成能力」の向上が示唆された。

## KEY WORDS

キャリア教育，教科教育，人間関係形成・社会形成能力，小学校社会

## 1 問題の所在

文部科学省(2011a)<sup>(1)</sup>はキャリア教育における外部人材活用等に関する調査研究協力者会議において、『『キャリア教育』とは、子どもたちが、社会の一員としての役割を果たすとともに、それぞれの個性、持ち味を最大限発揮しながら、自立して生きていくために必要な能力や態度を育てる教育』と述べている。

文部科学省(2011b)<sup>(2)</sup>は、キャリア教育において育成する力として、「基礎的・凡庸的能力」を示しており、その中の一つに「人間関係形成・社会形成能力」を挙げている。また、中央教育審議会(2011)<sup>(3)</sup>は、「小学校においては、(略)自己及び他者への積極的関心の形成等、社会性、自主性・自律性、関心・意欲等を養うことが重要である」としている。このことから、小学校において「基礎的・凡庸的能力」の中の「人間関係形成・社会形成能力」を育成することが重要であると考えられる。

中央教育審議会(2008)<sup>(4)</sup>は、「幼稚園、小学校、中学校、高等学校及び特別支援学校の学習指導要領の改善について(答申)」のうち、「社会の変化への対応の観点から教科等を横断して改善すべき事項」において、「子どもたちの発達の段階に応じて、学校のエデュケーション全体を通じた組織的・系統的なキャリア教育の充実に取り組む必要がある」としている。また、文部科学省(2017a)<sup>(5)</sup>は、小学校学習指導要領において、「児童が、学ぶことと自己の将来とのつながりを見通しながら、社会的・職業的自立に向けて必要な基盤となる資質・能力を身に付けていくことができるよう、特別活動を要としつつ各教科等の特質に応じて、キャリア教育の充実を図ること」と述べている。さらに、望月(2017)<sup>(6)</sup>は、キャリア教育において、『『アクティブ・ラーニング』と職業意識と技術の習得を内容とした『プロフェッショナル人材の育成』も必要な要素である』と述べている。文部科学省(2015)<sup>(7)</sup>は、「将来の変化を予測することが困難な時代を生きる子供たちに対しては、社会の変化に受け身で対処するのではなく、自ら課題を発見し、他者と協働してその解決を図り、新しい知・価値を創造する力を育成することが喫緊の課題である。そのためには、子供たちに『何を教えるか』だけでなく、子供たちが『どのように学ぶか』という視点が重要であり、『アクティブ・ラーニング』の視点で授業を改善し、課題の発見と解決に向けて主体的・協働的に学ぶ学習を充実させていくことが求められている」としている。このことから、アクティブ・ラーニングを各教科等の特質に応じて取り入れたキャリア教育を行なうことの重要性が高まっていると考えられる。

学習内でキャリア教育を行なう研究において、天内(2010)<sup>(8)</sup>は小学校の各教科でキャリア教育をどのように取り組むべきか、社会科を中心に留意点や具体的な姿を述べている。さらに、キャリア教育を支えるその他の要素として、「子どもの学習活動が中心の指導案」の作成が大切だとしている。また、藤川ら(2008)<sup>(9)</sup>は、「地域自律・民間活用型キャリア教育プロジェクト」として、教科におけるキャリア教育を実施し、「教科学習におけるキャリア教育の取り組みが、児童・生徒の職業観、勤労観を育成することに寄与していたことがうかがえる」としている。

\*富山市立月岡小学校      \*\*学校教育学系

これらの先行研究のように、教科学習でキャリア教育を行なうように提言する研究や地域や企業と連携したキャリア教育はあるものの、各教科等の中で行なわれたキャリア教育に関する実践研究は多くない現状がある。

## 2 目的

小学校社会科において、アクティブ・ラーニングを取り入れた授業を行なうことによって、「人間関係形成・社会形成能力」が向上するかを検証する。

## 3 研究方法

### 3. 1 調査対象

新潟県公立小学校 第6学年1クラス24名

### 3. 2 調査期間

平成30年10月～11月

### 3. 3 調査単元

小学校第6学年社会科「近代国家にむけて」(全5時間)

全5時間の単元計画及び学習目標は以下の通りである(表1)。

表1 単元計画と学習目標

時	学習内容	学習目標
1	ノルマントン号事件と条約改正	日清・日露戦争の経緯と、その背景にある国際情勢を調べ、日本と世界の国々との関係の変化を説明することができる。
2	日清・日露の戦い	日清・日露戦争を通して、日本の印象がどのように変わっていったのかを、“外国人”になったつもりで書き、3人以上に説明することができる。
3	日露戦争後の日本と世界	日露戦争の影響を知るとともに、日本が不平等条約の改正を達成した理由を知ることができる。
4	産業の発展と暮らしの向上	産業が発展し人々の暮らしが向上できた様子を知り、日本にとって産業の発展が良かったのかまたは悪かったのかを説明することができる。
5	社会に参画する権利を求めて	国民が社会に参加する権利を求めるようになったことを知る。また、この単元を通して1番印象に残っている、すごい・「なるほど～」と思った事件・出来事・人物などから1つ(1人)選んで友達に紹介する文を作り、紹介することができる。

### 3. 4 授業実践手続き

#### 3. 4. 1 学習デザイン

文部科学省(2017b)<sup>(10)</sup>は、子供たちが生涯にわたって能動的な学習を続けていくためにも、「『主体的・対話的で深い学び』の実現に向けた授業改善(アクティブ・ラーニングの視点に立った授業改善)を推進することが求められる」と述べている。また、中央教育審議会(2012)<sup>(11)</sup>は、アクティブ・ラーニングを「教員による一方的な講義形式の教育とは異なり、学習者の能動的な学修への参加を取り入れた教授・学習法の総称」としている。さらに、水落ら(2015)<sup>(12)</sup>は、アクティブ・ラーニングを行なうためのポイントとして、「目標と学習と評価を一体化」させていくことが大切だとしている。「目標と学習と評価の一体化」とは、「先生と子どもたちが目標を共有し、その目標に基づいた評価をフィードバックし合いながら、それぞれが最善と考える方法で学習していく学習デザイン」のことである。

本研究では、水落らを基に「目標と学習と評価の一体化」の学習デザインによるアクティブ・ラーニングの授業を行なった。

授業構成、具体的な1間の目標と学習と評価の例、各時間の学習内容は以下の通りである(表2、表3、表4)。

表2 各授業の構成

時間	内容
10分	前時の振り返り 目標と学習と評価の提示・共有
25分	学習者主体の目標達成に向けての学習活動
10分	評価 本時の振り返り 本時の振り返りの記入

表3 具体的な1時間の目標と学習と評価の例(第2時)

目標	日清・日露戦争を通して、日本の印象がどのように変わっていったのかを、“外国人”になったつもりで書き、3人以上に説明することができる。	
学習	8分	(1)授業者からの前時のフィードバック (2)前回の振り返りと今回の「目標」「評価」の説明を聞く。
	30分	(3)日清・日露戦争の4コマを書く。 [学習1] (4)日清・日露戦争の年表の( )の中を埋める。 [学習2] (5)外国人になったつもりで日本の印象の変化を書く。 [学習3] (6)友達の説明を聞いてサインを挙げたり、説明しサインをもらう。 [学習4]
評価	7分	(7)本時の振り返り記入
	A	日清・日露戦争の流れと、その背景にある国際情勢を調べ、日本の印象はどのように変わっていったのかを、“外国の人になったつもり”で書き、3人以上に説明することができる。加え、友だちの意見を赤色で付けくわえることができる。
	B	日清・日露戦争の流れと、その背景にある国際情勢を調べ、日本の印象はどのように変わっていったのかを、“外国の人になったつもり”で書き、3人以上に説明することができる。
	C	Bの条件を満たさないもの。

表4 各時間の学習内容

時数	学習内容
1時間目	絵を見て、気づいたことを書く。また、絵の事件名、内容を書く。 [学習1] 不平等条約を結んだ時代、名称、内容を書く。 [学習2] 条約改正に向けた取り組みを調べ( )の中を埋める。 [学習3] 今までの内容から、条約改正した時の陸奥宗光の気持ちを考える。 [学習4] 友達の説明を聞いてサインを挙げたり、説明しサインをもらう。 [学習5]
2時間目	日清・日露戦争の4コマを書く。 [学習1] 日清・日露戦争の年表の( )の中を埋める。 [学習2] 外国人になったつもりで日本の印象の変化を書く。 [学習3] 友達の説明を聞いてサインを挙げたり、説明しサインをもらう。 [学習4]
3時間目	( )の穴埋めを行なう。 [学習1] 教科書の言葉の理由を見つける。 [学習2] なぜ条約改正を達成できたのか教員を納得させる説明文を書く。 [学習3] 友達の説明を聞いてサインを挙げたり、説明しサインをもらう。 [学習4]
4時間目	( )の穴埋めを行なう。 [学習1] 産業の発展の良い点・悪い点をそれぞれ2つ書く。 [学習2] 産業の発展をするべきか、しないべきだったのかを選び理由を書く。 [学習3] 友達の説明を聞いてサインをあげたり、説明しサインをもらう。 [学習4]
5時間目	( )の穴埋めを行なう。 [学習1] さまざまな運動が起きた理由を考え書く。 [学習2] 自分の中にピンときたものの紹介文を選び理由を書く。 [学習3] 友達の紹介文を聞いてサインをあげたり、紹介しサインをもらう。 [学習4]

### 3. 4. 2 ワークシート及びネームプレートの活用

本研究では、毎時間ワークシートを使用した(図1)。授業者は、「学習者主体の目標達成に向けての学習活動」において、教授(行為)をなるべく控え、主体的・協働的に目標を達成することができるよう、観察や全体への声かけを行なった。また、毎時間ネームプレートを活用し、学習進度が学習者全体で共有できるようにした(図2)。

図1 例「1時間目のワークシート」



図2 ネームプレートを活用した授業の様子(第1時)

### 3. 5 記録方法

- ・学習者にICレコーダーを1人1台配付し、学習中の会話を記録する。
- ・教室の前後対角線上にビデオカメラを2台設置し、授業全体の様子を記録した。
- ・毎時間、授業に対し児童に振り返りを記述方式で実施し、記録した。

## 4 分析方法

以下の内容について分析を行ない、検証する。

### 4. 1 質問紙調査

学習者を対象に質問紙調査を行ない、目標と学習と評価の一体化を取り入れた授業を行なうことが、学習者の「人

間関係形成・社会形成能力」に与える効果を検証する。

#### 4. 2 発話プロトコル分析

抽出した学習者の発話プロトコル分析により、アクティブ・ラーニングを取り入れた授業における学習者の変容を質的に検証する。

#### 4. 3 行動分析

抽出した学習者の行動分析により、アクティブ・ラーニングを取り入れた授業における学習者の変容を質的に検証する。

#### 4. 4 振り返り記述分析

抽出した学習者の振り返り記述の分析により、アクティブ・ラーニングを取り入れた授業における学習者の変容を質的に検証する。

### 5 結果

#### 5. 1 質問紙調査

アクティブ・ラーニングを取り入れた授業を行なうことが、学習者の「人間関係形成・社会形成能力」に与える効果を検証するため、新見ら(2009)<sup>(13)</sup>が作成したキャリア意識尺度(人間関係形成能力)を参考に質問紙を作成し、使用した。なお、キャリア教育に関わる諸能力の人間関係形成能力は、基礎的・汎用的能力の「人間関係形成・社会形成能力」にあたるため本尺度を参考にした(図3)。全9項目(表5)について、6段階(1「とてもそう思わない」、2「あまりそう思わない」、3「どちらかというと思わない」、4「どちらかというと思う」、5「わりとそう思う」、6「とてもそう思う」)で回答を求めた。今回、質問紙調査は単元前と単元終了後の2回行なった。2回目の単元終了後に行なった調査では、質問が始まる前に「この単元を通して」と言葉を付け加えた。

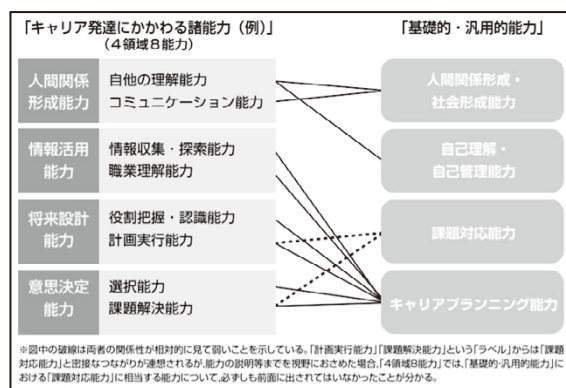


図3 文部科学省<sup>(14)</sup>「キャリア教育の手引き(改訂版)」

表5 質問項目

1. 自分が話したいことがあると、人の話を聞かないでしゃべると思う
2. 友だちのよいところをもっと知りたいと思う
3. 友だちが困ったときには、助けることができると思う
4. 友だちの気持ちを大切にすることができると思う
5. 自分がいやなことは、友だちにはっきり言うべきだと思う
6. 友だちのよくないところは注意するべきだと思う
7. 自分の気持ちや考えを友だちにわかりやすく伝えることができると思う
8. 落ち込んでいても、友だちとは明るく話ができると思う
9. 自分と意見が合わない人とは付き合わないようにすると思う

調査対象24名のうち、事前・事後の調査に参加した19名の回答の項目別得点(1に1点, 2に2点, 3に3点, 4に4点, 5に5点, 6に6点)を、一要因参加者内計画の分散分析で判定した。その結果、9項目中2項目において正の有意差がみられた(表6)。

表6 分散分析の結果

質問項目		Mean	S.D.	有意差検定
1. 自分が話したいことがあると、人の話を聞かないでしゃべると思う	事前	3.00	1.37	$F(1,18)=1.73$
	事後	2.73	1.33	ns
2. 友だちのよいところをもっと知りたいと思う	事前	4.42	1.13	$F(1,18)=0.05$
	事後	4.47	1.18	ns
3. 友だちが困ったときには、助けることができると思う	事前	4.00	1.07	$F(1,18)=10.78$
	事後	4.57	1.22	** $p<.01$
4. 友だちの気持ちを大切にすることができると思う	事前	4.31	1.45	$F(1,18)=1.66$
	事後	4.73	1.20	ns
5. 自分がいやなことは、友だちにはっきり言うべきだと思う	事前	4.73	1.01	$F(1,18)=1.15$
	事後	4.52	1.22	ns
6. 友だちのよくないところは注意するべきだと思う	事前	4.52	1.42	$F(1,18)=0.02$
	事後	4.47	1.46	ns
7. 自分の気持ちや考えを友だちにわかりやすく伝えることができると思う	事前	3.52	1.39	$F(1,18)=5.45$
	事後	4.36	0.66	* $p<.05$
8. 落ち込んでいても、友だちとは明るく話ができると思う	事前	3.68	1.25	$F(1,18)=1.34$
	事後	3.94	1.35	ns
9. 自分と意見が合わない人とは付き合わないようにすると思う	事前	2.78	1.19	$F(1,18)=1.51$
	事後	2.52	0.75	ns

## 5.2 プロトコル分析

質問紙調査の有意に向上した2項目が、どのような場面において高まったのかを、具体的場面から捉えるために発話プロトコルから分析を行なった。有意な変容がみられた2項目で数値が上昇した学習者Aの1時間目(表7)と5時間目(表8)の「学習者主体の目標達成に向けての学習活動」の中で以下の発話がみられた。

表7 学習者Aの1時間目(学習3)

<p>B: 岩がついてた。  A: 何々何国ってついてた。  B: 岩がついてた。  A: ①最初に?  B: うん。  A: 岩, 岩ー。  B: この人の所に, 最後国だった気がする。  A: でもここ多分もう違うんだよな。1871年じゃないもん。  B: どこにそんなところある。  A: ②わからんよー, わからんよー, わ・か・ら・ん・よー。  A: えー全然時間ない。めっちゃ難しいんだけどこれ。  B: え, これノルマントン号事件。  A: ③あ, ノルマントン号。  B: 岩倉, 使節団。  A: ④岩倉使節団?  B: うん。</p>
----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------

表8 学習者Aの5時間目(学習1)

A: ⑤社会難しいんだよね。  
 B: わかる。  
 C: わかんないね。  
 D: これどこに書いてあったっけ? 普通選挙法ってどこに書いてあったっけ? Aさん。  
 A: ⑥えっとね, どこだっけ? えっとね, えっとね, 違うここ普通選挙だ。  
 D: 25歳以上かな? えっ, ここ25歳以上?  
 A: ⑦ここ普通選挙。あ, すいません。  
 D: 25歳以上の男性には選挙権が認められたが, 女性の選挙権は認められなかった。一方, 選挙は。  
 ～略～  
 D: ねー, Aちゃん, ここ違うじゃん。  
 A: ⑧そう, 民主主義じゃなかった。  
 D: また普通?  
 A: ⑨えっ, これは普通選挙法だけどこっちは普通選挙。  
 D: セーんーきよ。オッケー。

表7, 表8の学習は異なっているものの, いずれも穴埋め問題に取り組んでいる時の発話である。1時間目のときは, 下線部①, ③, ④のようにわからない問題をBに聞き行動を起こす様子がみられた。また, 下線部②のように声にだして分からないことを伝える場面もみられた。5時間目の方では下線部⑤のようなネガティブな発言もみられたものの, 下線部⑥のように自ら答えを確認し, さらに下線部⑦, ⑧, ⑨のように, 友だちが困っている問題を手伝う場面がみられた。

また, 有意な変容がみられた項目「3. 友だちが困ったときには, 助けることができると思う」において数値が上昇した学習者E, 「7. 自分の気持ちや考えを友だちにわかりやすく伝えることができると思う」において数値が上昇した学習者F, Gの2時間目(表9)と5時間目(表10)の「学習者主体の目標達成に向けての学習活動」の中で以下の様な発話がみられた。

表9 学習者E, F, Gの2時間目(学習3)

F: ⑩かいたもうこれでよくない?  
 F: 日本の地位は上がっている。(笑いながら)  
 G: ⑪Eのパクろ。  
 F: 何?  
 E: すごく簡単に書いた。  
 G: ⑫いいんだよ。こんなの終わらないんだよ。

表10 学習者Eの5時間目(学習3)

E: ⑬野口英世。やだー。千円札になるほど偉い人だから。  
 F: 理由それ? (笑いながら)  
 G: えー, じゃあこれがいい。  
 E, F: あー。  
 E: この人あれなんでしょ。  
 F: だってこの人左腕使えないんだよ。野口英世。  
 G: ⑭これがこうなってるし。これで生活してんでしょ。  
 E: ⑮そうそう。この人, 亡くなった時には袋が一つあるだけでねー。その中には憲法と日記と聖書しか入ってないんだよ。  
 F: ⑯どういうこと? お金持っていないってこと?  
 E: ⑰えっ, だからお金を, その, この公害の問題に尽くしたんだって。  
 F: ⑱えーすげー。めっちゃすげー人だ。  
 G: ⑲ならうちその人書く。  
 F: えっ, ならうちやめとく。

この発話は2時間目と5時間目の学習3での会話で, それぞれ説明文の作成と紹介文の作成を行なっている時である。1時間目では, 下線部⑩, ⑪の様な発言をし, ⑫のように諦める発言がみられた。しかし, 5時間目では, 学習

者F, Gが⑭までに野口英世の話をしているのに対し、学習者Eが⑮のように補足をいれている。さらに、学習者Eの疑問⑯にも⑰のように答えて、友だちの疑問を解決しようとする様子が見られた。また、⑬や⑱、⑲のように自分の気持ちや考えを、友だちに素直に伝える姿がみられた。

### 5. 3 行動分析

有意な変容がみられた項目「7. 自分の気持ちや考えを友だちにわかりやすく伝えることができると思う」において数値が上昇した学習者の1時間目と5時間目の行動の変容を抽出した。今回抽出するにあたり学習者に裁量がある「学習者主体の目標達成に向けての学習活動」の時間を抽出した。以下、学習者Hの行動である(表11)。

表11 学習者Hの行動

時間	1時間目の学習者Hの行動	5時間目の学習者Hの行動
1分	周りを見渡すも1人でワークシートを行なう。	I, Jの所に行き、使用していない机を移動、くっつけ3人でワークシートを行なう。
3分	⑳K, LがHに話しかける。	
8分	ネームプレートを動かかしに行く。	
9分	㉑分からない問題を授業者に尋ねる。	
11分		ネームプレートを動かかしに行く。
12分	分からないところを後ろのAに尋ねる。そのまま、BとCとも問題について話し合う。	
13分	㉒授業者に問題の答えが合っているかを確認する。	
15分		ネームプレートを動かかしに行く。
19分	ネームプレートを動かかしに行く。	
20分	㉓問題の答え方があっているかを授業者に確認する。	ネームプレートを動かかしに行く。
21分		Iの説明を受け、サインを書く
22分		分からないところをIに聞く。
24分		Jと説明し合い、サインを書き合う。
		Lが訪ねてき、Lの説明を受けてサインを書く。
		その後説明し、サインをもらう。
27分	ネームプレートを動かかしに行く。	
28分		元の席に戻る。
32分	㉔Iが分からない所を聞きに来る。 J, K, Lが説明とサインをもらいに来る。 ネームプレートを移動させに行く。 その後、元の席に戻る。	

1時間目は最初、周りを見渡すも他の学習者が先にグループを編成してしまい、1人でワークシートを始めた。問題が分からない、答えが合っているかわからない時には、下線部㉑、㉒、㉓のように授業者に尋ねる場面が見られた。5時間目では最初から三人組になり、分からないところがあっても3人で話し合い学習を進めていく様子が見られ、授業者には一度も話しかけることはなかった。また、1時間目は下線部㉑、㉔のように受け身な姿勢がみられたが、5時間目では受け身な姿勢が見られなかった。

### 5. 4 振り返り記述分析

質問紙調査の項目7において、最も数値が上昇した学習者Hの振り返り記述を分析する(表12)。

表12 学習者Hの振り返り記述

1時間目	陸奥宗光が素晴らしい人物ということが分かった。 ノルマントン号事件で死亡した人たちがとてもかわいそう
2時間目	この2つの戦争で日本は世界からすごいという目で見られるように！！ また、死亡した人も多い。
3時間目	条約改正が達成できたのは、多くの人々のおかげということが分かった。㉕学習3の説明が上手くできた。
4時間目	すごく楽しかった。 ( )をうめる問題が上手にできなかった。
5時間目	まえよりスラスラとかけた。 とても楽しかった。 おぼえやすい。

1, 2時間目の際の振り返りでは、授業の内容を振り返っているのに対し、3時間目以降は授業内での自身の振り返りを行なうように変容している。また、自身の感想の他にも、㊟のように説明の仕方の自己評価を行なっていることが分かる。

## 6 考察

本研究において、以下の2点が明らかになった。

①質問紙項目の「3. 友だちが困ったときには、助けることができると思う」が有意な変容を示し、5.2の学習者AやEのような友だちが困っている問題を手伝う変容が見られたことから、「目標と学習と評価の一体化」を取り入れたアクティブ・ラーニングの授業を通して、友だちを助けることができるという自信が生まれたことが示唆された。

②質問紙項目の「7. 自分の気持ちや考えを友だちにわかりやすく伝えることができると思う」が有意な変容を示し、5.2の学習者Fや5.3の学習者Hのような変容がみられたこと、5.4のような振り返り記述の変容が見られたことから、「目標と学習と評価の一体化」を取り入れたアクティブ・ラーニングの授業を通して、自分の気持ちや考えを素直に言えるようになることができることが示唆された。

①, ②から「目標と学習と評価の一体化」を取り入れたアクティブ・ラーニングの授業を行なうことが、人間関係形成・社会形成能力の向上に関係することが示唆された。

## 7 結論

本研究の、小学校社会科における通常授業において、本研究では、水落らを基に「目標と学習と評価の一体化」の学習デザインによるアクティブ・ラーニングの授業を行なった。その結果、「目標と学習と評価の一体化」を取り入れたアクティブ・ラーニングの授業を行なうことが、人間関係形成・社会形成能力の向上に関係することが示唆された。

## 8 今後の課題

今回は、キャリア教育において小学生段階で必要な基盤となる「人間関係形成・社会形成能力」と「目標と学習と評価の一体化」を取り入れたアクティブ・ラーニングの授業の関係が示唆されたが、「人間関係形成・社会形成能力」の他の「基礎的・汎用的能力」においても小学校社会科「目標と学習と評価の一体化」を取り入れたアクティブ・ラーニングの授業において向上するのかを調査する必要がある。

また、他の教科においても人間関係形成・社会形成能力が向上するか検証する必要がある。

## 引用及び参考文献

- (1) キャリア教育における外部人材活用等に関する調査研究協力者会議：「学校が社会と協働して一日も早くすべての児童生徒に充実したキャリア教育を行なうために」, pp.2-6, 文部科学省, 2011a. (閲覧日2021年8月10日)  
<https://www.mhlw.go.jp/stf/shingi/2r98520000020ado-att/2r98520000020ajg.pdf>
- (2) 文部科学省：「小学校キャリア教育の手引き(改訂版)」, p.13, 文部科学省, 2011b. (閲覧日2021年8月10日)  
[http://www.mext.go.jp/component/a\\_menu/education/detail/\\_icsFiles/afiedfile/2012/05/21/1320712\\_04.pdf](http://www.mext.go.jp/component/a_menu/education/detail/_icsFiles/afiedfile/2012/05/21/1320712_04.pdf)
- (3) 中央教育審議会：「今後の学校におけるキャリア教育・職業教育の在り方について(答申)」, p.39, 文部科学省, 2011. (閲覧日2021年8月10日)  
[http://www.mext.go.jp/component/b\\_menu/shingi/toushin/\\_icsFiles/afiedfile/2011/02/01/1301878\\_1\\_1.pdf](http://www.mext.go.jp/component/b_menu/shingi/toushin/_icsFiles/afiedfile/2011/02/01/1301878_1_1.pdf)
- (4) 中央教育審議会：「幼稚園, 小学校, 中学校, 高等学校及び特別支援学校の学習指導要領の改善について(答申)」, pp.68-69, 文部科学省, 2008.
- (5) 文部科学省：「小学校学習指導要領(平成29年度告示)」, pp.23-24, 文部科学省, 2017a.
- (6) 望月厚志：「現代社会における「職業指導」及び「キャリア教育」の今後の課題と新たな方策:小学校・中学校・高等学校における「職業指導」・「キャリア教育」の一貫性のある新たな展開を目指して」, 茨城大学教育学部紀要. 教育科学,

- Vol.66, pp.601-628, 茨城大学教育学部, 2017.
- (7) 文部科学省：「職員等の指導体制の在り方に関する懇談会提言」, p.2, 文部科学省, 2015. (閲覧日2021年8月10日)  
[http://www.mext.go.jp/a\\_menu/shotou/hensei/003/\\_\\_icsFiles/afieldfile/2015/09/11/1361243\\_1.pdf](http://www.mext.go.jp/a_menu/shotou/hensei/003/__icsFiles/afieldfile/2015/09/11/1361243_1.pdf)
- (8) 天内純一：「キャリア教育の視点を取り入れた教科学習—社会科学学習を中心に—」, 弘前大学教育学部附属教育実践総合センター研究員紀要, Vol.8, pp.43-55, 弘前大学教育学部附属教育実践総合センター, 2010.
- (9) 藤川大祐・塩田真吾：「教科学習におけるキャリア教育の試み—地域自律・民間活用型キャリア教育プロジェクトを事例に—」, 千葉大学教育学部研究紀要, Vol.56, pp.169-174, 千葉大学教育学部, 2008.
- (10) 文部科学省：小学校学習指導要領(平成29年度告示)解説 総則編」, pp.3-4, 文部科学省, 2017b.
- (11) 中央教育審議会：「新たな未来を築くための大学教育の質的転換に向けて～生涯学び続け、主体的に考える力を育成する大学へ(答申)」, p.37, 文部科学省, 2012. (閲覧日2021年8月10日)  
[http://www.mext.go.jp/component/b\\_menu/shingi/toushin/\\_\\_icsFiles/afieldfile/2012/10/04/1325048\\_3.pdf](http://www.mext.go.jp/component/b_menu/shingi/toushin/__icsFiles/afieldfile/2012/10/04/1325048_3.pdf)
- (12) 水落芳明・阿部隆幸：「だから、この『学び合い』は成功する!」, p.6, 学事出版, 2015.
- (13) 新見直子・前田健一：「小中高生を対象にしたキャリア意識尺度の作成」, キャリア教育研究, vol.27, pp.43-55, 日本キャリア教育学会, 2009.
- (14) 前掲書(2)p.15.

# A case study on the formation of human relationships and the ability of career education in elementary school social studies to construct social construction abilities

Kanato OKAZAKI\* · Takayuki ABE\*\*

## ABSTRACT

This study offered lessons adopting active learning in elementary school social studies to verify improvements in the ability of learners to form human and social relationships. We applied five hours of active learning lessons in elementary school social studies. We conducted a questionnaire survey before and after the unit was delivered, asked learners to describe their reflections on the full-time practiced lessons, and analyzed their video recordings. The results indicated an enhancement in the abilities of learners to form human and social associations. The lessons suggested that these skills are related to career development.

---

\* Tsukioka elementary school, Toyama city    \*\* School Education